

思春期の障害が妊娠・分娩・産褥に及ぼす影響

分担研究課題：女性の健康から見た母子保健のあり方に関する研究

(分担研究者：東京大学医学部産科婦人科 武谷雄二)

研究協力者：東京医科歯科大学医学部¹⁾、群馬大学医学部²⁾、京都府立医科大学産婦人科³⁾

久保田俊郎¹⁾、宮坂尚幸¹⁾、麻生武志¹⁾、
水沼英樹²⁾、伊吹令人²⁾、福岡正晃³⁾、本庄英雄³⁾

要約： 思春期における種々のトラブルが、その後経験した妊娠・分娩・産褥における異常やリスクファクターと関連性を有する否かを解明する目的で、自記式調査票を用いたアンケート調査を設定した。調査方法は二種類からなり、第一に分娩を終えた直後の産褥婦人を対象とした、思春期におけるトラブルに関するアンケート調査であり、第二に1980年から1985年の5年間に婦人科外来に月経異常や月経障害を主訴に来院した患者に対する、その後の妊娠・分娩・産褥に関するアンケート調査である。この調査により、思春期での内分泌障害のみならずこの時期における社会環境や性格形成などが、後の妊娠・分娩・産褥の異常発生に関与するか否かが明らかになると考えられる。

見出語： 思春期障害、妊娠・分娩・産褥、内分泌因子、性格・心理的因子、社会的環境因子

1、分娩異常と思春期障害（アンケート1）

研究方法： このアンケート調査は、群馬大学医学部・京都府立医科大学・東京医科歯科大学産婦人科病棟に入院中の産褥1週間以内の婦人を対象とする。年齢は原則として25～35歳とし、調査方法は本研究の趣旨についての説明を行ない被験者より同意を得た後、表1～5の患者用記入欄に自記式調査票の記入を依頼する。同時に担当医には、表6の医師記入欄における今回の妊娠・分娩に関する項目の記入とともに、患者用記入欄での解答の確認を依頼する。この調査票は、思春期における月経障害の有無、産婦人科受診歴の有無、体重の変動、既往歴などの他に、思春期での社会環境、嗜好・文化、被験者の性格など幅広い項目を含め作成されている。医師記入欄での成績に基づき正常分娩群と異常分娩群に分け各調査項目を両群間で比較しまた多変量解析により、思春期における様々の因子の分娩への影響について多角的に捕えたい。アンケート結果の解析・統計処理については、東京医科歯科大学

難治疾患研究所社会医学研究部門（疫学）・田中平三教授および横山徹爾先生のご指導をお願いしている。

アンケート調査票：患者用記入欄（表1～5）には、生年月日、身長、体重を調査後まず月経について質問する。思春期障害では月経は重要なポイントの一つであるので、初経年齢、周期性、無月経の有無、月経時障害などについて調査する。また産婦人科への受診歴、妊娠歴、10代の体重の変動の有無、思春期での既往歴なども重要な質問事項となろう。さらにこのアンケートでは、思春期での身体的事項のほかその時期における社会環境、嗜好・文化や被験者の性格などについても調査する。社会環境では学歴と職業、家庭環境、結婚や今回の妊娠について質問する。嗜好・文化については、喫煙や飲酒の経験、食事への配慮、スポーツなどを質問する。最後に主として情緒の安定性を試す8問の性格テストを組み入れている。質問事項の中には患者のプライベートに関するものもあるため、秘密厳守を前提に無記名とした。医師記入欄（表6）では、患者の妊娠分娩歴、今回の妊娠の現病歴と経過、分娩異常の有無、新生児の出生体重とアプガールスコアについて調査する。特に分娩が正常であったか否かは重要なポイントであり、この調査では正常分娩として、37週以降42週未満の経膈分娩で出口部の吸引分娩を含むものと規定した。鉗子分娩や帝王切開分娩などは異常分娩とし、判断の難しい骨盤位分娩や多胎分娩は今回対象から除外した。

2、若年発症の月経異常あるいは月経障害の妊娠・産褥に及ぼす影響の調査（アンケート2）

調査の動機： 思春期は心も体も小児から成人へと移行する過程にあり、そのケアに対しては特別な知識が必要であるとされる。思春期の特殊外来を持つ施設の報告によれば、外来受診者のうち排卵障害を原因としたいわゆる卵巣機能不全者は全受診者の40.1%を占

表1 アンケート票 1-1

思春期の障害が妊娠・分娩に及ぼす影響に関するアンケート調査票

女性の健康を考える上で、妊娠・分娩が将来の健康に及ぼす影響は計り知れないものがあります。このアンケートは思春期のいろいろな出来事とその後の妊娠・分娩の経過にどのような影響を及ぼすかについて調査するもので、あなたの生涯にわたる健康を維持するための重要な資料になります。また、もし思春期での障害が妊娠・分娩の異常に深く関わっているとすれば、思春期の出来事を振り返ることがこれから妊娠・分娩を迎える方たちに役立てることができると判断し作成致しました。つきましては、以下の質問に対するあなたのお答えを記入頂ければ幸いです。お答えの内容については秘密を厳守致しますし、無記名で結集です。お答えになりにくい質問には、お答えにならなくて結構です。なお、このアンケートは厚生省の研究班によって作成されたもので、研究以外の目的で使用することはありませんので、よろしくご協力お願いいたします。

厚生省心身障害研究「思春期障害の妊娠・分娩への影響」研究班

以下の質問にお答え下さい。答えは□の中に記入して下さい。
選択肢のあるものは、その番号を□の中に記入して下さい。

- 1: 今日の日付 平成 年 月 日
2: 分娩年月日 平成 年 月 日
身体所見および現症
3: 生年月日 昭和 年 月 日
4: 現在の状態
4-1: 身長 cm
4-2: 体重 kg
5: 月経について
5-1: 初めて月経があったのは何歳頃ですか 歳
5-2: その頃の身長体重は cm kg
5-3: 月経の周期性についてお答え下さい
5-3-1: 初経から3年間のあなたの月経は
①規則的だった(25日から35日周期)
②かなり不規則だった(3カ月以上の間隔)
③不規則だった(25日未満または35日から3カ月周期)
5-3-2: 16歳から19歳のあなたの月経は
①規則的だった(25日から35日周期)
②かなり不規則だった(3カ月以上の間隔)
③不規則だった(25日未満または35日から3カ月周期)

表2 アンケート票 1-2

- 5-3-3: 今まで妊娠以外で月経が半年以上無かったことがありましたか
①ある ②ない 歳
5-3-3-1: 何歳頃ですか 歳
5-3-3-2: その時どうしましたか
①自然に回復した
②病院に行って治療した
5-4: 月経時の障害についてお答え下さい
5-4-1: 初経から3年間のあなたの月経は
①生理痛が強く、鎮痛剤を服用することが多かった
②生理痛はあったが、鎮痛剤を飲むほどではなかった
③生理痛はほとんどなかった
5-4-2: 16歳から19歳のあなたの月経は
①生理痛が強く、鎮痛剤を服用することが多かった
②生理痛はあったが、鎮痛剤を飲むほどではなかった
③生理痛はほとんどなかった
5-5: 月経についてあなたはどのように思っていましたか
①月経がなければ良いと思った
②「つらい」「面倒くさい」がしかたないと思った
③何とも思わなかった
6: 産婦人科受診歴について
6-1: 10代に産婦人科を受診したことがありますか
①ある ②ない 歳
6-1-1: 何歳のときですか 歳
6-1-2: どんな症状でしたか
①妊娠 ②月経の異常 ③生理痛
④おりもの、かゆみ ⑤生理以外の下腹部痛
⑥性病 ⑦その他(受診した理由をお答え下さい)
6-2: 10代に予定外の妊娠をしたことがありますか
①ある ②ない
6-2-1: その時どうしましたか
①生んだ ②中絶した ③産流した
④子宮外妊娠だった

表3 アンケート票 1-3

- 7: 10代の体重の変動について
7-1: 10代に急激に体重が増えたこと(半年で5kg以上)が
①ある ②ない
7-1-1: そのとき月経の周期に変調はありましたか
①ある ②ない
7-2: 10代に急激に体重が減ったこと(半年で5kg以上)が
①ある ②ない
7-2-1: 体重が減ったのはどうしてですか
①ダイエットした ②運動をした
③病気をした ④その他
⑤理由はわからない
7-2-2: その時月経の周期に変調はありましたか
①ある ②ない
8: 今回の出産以前に次にあげたような病気や手術をしたことがありますか
8-1: 高血圧 ①ある ②ない
8-2: 糖尿病 ①ある ②ない
8-3: 虫垂炎 ①ある ②ない
8-4: ぜんそく ①ある ②ない
8-5: 腎臓病 ①ある ②ない
8-6: 婦人科手術 ①ある ②ない
8-7: 骨折 ①ある ②ない
8-8: 貧血 ①ある ②ない
社会環境
9: 学歴と職業について
9-1: 最後に卒業した学校は
①中学校 ②高等学校 ③専門学校 ④短期大学
⑤大学 ⑥大学院
9-2: あなたの中学生時代についてお答え下さい
9-2-1: あなたの中学校は
①共学だった ②女子校だった
9-2-2: 中学生生活は
①楽しかった ②楽しくはなかったが通った
③つまらなくてかなり休んだ ④ほとんど行かなかった
9-3: あなたの高校生時代についてお答え下さい
9-3-1: あなたの高校は
①共学だった ②女子校だった
9-3-2: 高校生生活は
①楽しかった ②楽しくはなかったが通った
③つまらなくてかなり休んだ ④ほとんど行かなかった
9-4: 最終学校を卒業したあとについて
9-4-1: 卒業後就職していましたか
①就職していた ②就職していなかった
9-4-1-1: 就職後仕事は
①結婚前にやめた ②結婚のときやめた
③妊娠してやめた ④現在も働いている
10: 10代の家庭環境について
10-1: 親はあなたのしつけに
①とても厳しかった ②厳しかった
③時々注意された ④何も言わなかった
⑤わからない
10-2: あなたは家庭について
①満足していた ②多少は不満があった ③不満があった
④とても嫌だった ⑤わからない
11: 結婚について
11-1: 結婚したことが ①ある ②ない
11-1-1: (歳の時) 歳
11-2: 離婚したことが ①ある ②ない
11-2-1: (歳の時) 歳
11-3: 死別したことが ①ある ②ない
11-3-1: (歳の時) 歳
11-4: 再婚したことが ①ある ②ない
11-4-1: (歳の時) 歳
12: 今回の妊娠は
①予定外に妊娠した ②子供が欲しいと思ってから1年以内にできた
③子供が欲しいと思ってから1年以上2年以内にできた
④子供が欲しいと思ってから2年以上かかった
嗜好、文化
13: 初めて(ほんの一口でも)タバコ吸ったのはいつですか
①小学校 ②中学校 ③高校 ④その後 ⑤全くない
14: 初めて親に内緒でお酒飲んだのは
①小学校 ②中学校 ③高校 ④その後 ⑤全くない

表4 アンケート票 1-4

- 9-3-2: 高校生生活は
①楽しかった ②楽しくはなかったが通った
③つまらなくてかなり休んだ ④ほとんど行かなかった
9-4: 最終学校を卒業したあとについて
9-4-1: 卒業後就職していましたか
①就職していた ②就職していなかった
9-4-1-1: 就職後仕事は
①結婚前にやめた ②結婚のときやめた
③妊娠してやめた ④現在も働いている
10: 10代の家庭環境について
10-1: 親はあなたのしつけに
①とても厳しかった ②厳しかった
③時々注意された ④何も言わなかった
⑤わからない
10-2: あなたは家庭について
①満足していた ②多少は不満があった ③不満があった
④とても嫌だった ⑤わからない
11: 結婚について
11-1: 結婚したことが ①ある ②ない
11-1-1: (歳の時) 歳
11-2: 離婚したことが ①ある ②ない
11-2-1: (歳の時) 歳
11-3: 死別したことが ①ある ②ない
11-3-1: (歳の時) 歳
11-4: 再婚したことが ①ある ②ない
11-4-1: (歳の時) 歳
12: 今回の妊娠は
①予定外に妊娠した ②子供が欲しいと思ってから1年以内にできた
③子供が欲しいと思ってから1年以上2年以内にできた
④子供が欲しいと思ってから2年以上かかった
嗜好、文化
13: 初めて(ほんの一口でも)タバコ吸ったのはいつですか
①小学校 ②中学校 ③高校 ④その後 ⑤全くない
14: 初めて親に内緒でお酒飲んだのは
①小学校 ②中学校 ③高校 ④その後 ⑤全くない

表5 アンケート票 1-5

- 15: 中学3年生の頃
- 15-1 太りすぎないように食事に気をつけていましたか
 ①気をつけていた ②気にしていなかった
- 15-2 その頃の身長と体重を教えてください c m k g
- 16: スポーツについて
- 16-1: 小学校時代
 ①積極的にしていた②していた③ほとんどしなかった
- 16-2: 中学校時代
 ①積極的にしていた②していた③ほとんどしなかった
- 17: 次の質問あてはまるものを選んで下さい
- 17-1: 理由もなく不安になることが時々ある
 ①はい ②いいえ ③どちらとも言えない
- 17-2: 興奮するとすぐ涙がでる
 ①はい ②いいえ ③どちらとも言えない
- 17-3: ぼんやり考え込むことがある
 ①はい ②いいえ ③どちらとも言えない
- 17-4: すぐ不機嫌になる
 ①はい ②いいえ ③どちらとも言えない
- 17-5: たびたび過去の失敗をくよくよする
 ①はい ②いいえ ③どちらとも言えない
- 17-6: とまどき気が散って考えがまとまらない
 ①はい ②いいえ ③どちらとも言えない
- 17-7: とまどき自分をつまらぬ人間だと思うことがある
 ①はい ②いいえ ③どちらとも言えない
- 17-8: 早く決心すればよかったと悔やむことが多い
 ①はい ②いいえ ③どちらとも言えない

以上で終了です。
 次のページは担当の先生に記入していただきますので、何も書かないで下さい
 ご協力有り難うございました。

め、次いで膣炎、外陰炎(11.6%)、月経困難症(7%)、機能性子宮出血(6.6%)となり、若年女性では月経異常あるいは月経障害が疾患の重要な位置を占めることが理解できる。しかも、この月経障害のうち特に体重減少やストレスなど明らかな誘因を持つ続発性無月経をしめす女性では、自然排卵周期を回復する頻度は少なく、思春期以降も引き続き月経異常を呈する頻度が高いので、思春期におけるこれらの障害がその後の妊娠の成立や妊娠過程および産褥に少なからず影響を持つ可能性が示唆される。このような観点に基づき、若年発症の月経異常あるいは月経障害の妊娠の成立、産褥に及ぼす影響を明らかにすることを目的に、以下の調査を行うこととした。

調査の概略: 今回の調査を行うに当たり、調査の内容から判断して後方視的検討を行うこととした。1980年1月から1985年12月までの5年間に月経異常あるいは月経障害を主訴として来院した20歳未満の女性を対象として、表7の項目について基礎調査を行う。対象者の年齢からすでに結婚や就職などにより転居している可能性が高いので、その場合には保護者を通してできるだけ追跡調査を行うこととした。

表6 アンケート票 1-6

以下の質問はこれまでの患者さんへの質問とは異なり、今回の妊娠・分娩に関して担当の先生がたにお答えいただくものです。ご協力お願いいたします。

- 1: 妊娠分娩歴(今回の妊娠は除きます)
- 1-1: 経産回数 回数
 1-2: 経産回数
- 2: 今回の妊娠は
- ①自然妊娠
 ②不妊症にて通院中の妊娠
- 2-1: 治療の内容についてお答え下さい
- ①自然妊娠
 ②排卵誘発剤(黄体ホルモンを含む)の使用のみ
 ③人工授精
 ④体外受精
 ⑤その他
- 3: 今回の妊娠経過は
- ①治療(投薬または入院)を要する異常はなかった
 ②異常があつて治療(投薬または入院)した
- 4: 今回の分娩は
- 4-1 ①正常産 ②早産 ③過期産
 4-2 ①正常分娩(注)
 ②異常分娩
- 4-2-1: 異常分娩の種類
 ①帝王切開 ②それ以外の異常分娩
 ()
- 4-2-1-1帝王切開の適応は
 ①胎児仮死 ②それ以外
 ()
- 5: 新生児について
- 5-1 出生体重
 5-2 アプガースコア(1分後)
 5-3 アプガースコア(5分後)

注:
 1: 対象は25歳以上35歳未満で骨盤位、多胎妊娠は除く
 2: 正常分娩の基準は以下のものとする
 1: 37週以降42週未満の経産分娩
 2: 出口部の吸引分娩は含むが、鉗子分娩は除外

調査の内容: 調査項目については表8、9に示す。まず若年発症の月経異常や月経障害の性成熟後の転帰を明らかとするため、現在の症状や治療状況を調査する。さらに、これらの症例の中で妊娠を経験した症例について表8、9の項目の調査を行い、妊娠の動機、妊娠中の異常の有無、産褥の異常の有無、および妊娠分娩後の月経周期の正常・異常の評価を行うこととした。

考察: 思春期は小児から成人への移行の時期であり、生殖機能が成熟し肉体的にも精神的にも大きな発達を遂げる時期である。内分泌学的には視床下部-下垂体-性腺系の賦活化が起こり、性ステロイドの分泌が増加し第2次性徴が出現し、性周期が確立する。さらに思春期の心身の発育には遺伝、栄養、内分泌などの生物学的な因子のみならず、心理的なストレス、学歴、両親の社会・経済的な地位などさまざまな心理・社会的な因子が働いていることも知られている。こういう現状にあつては、思春期の異常の診断の正確性や治療の適切さが、その個人のその後の人生により重要になってくる。いい換えれば思春期の異常の診断や治療の良否が、その女性のその後の心身の発育と健康維持

表7 アンケート票 2-1

若年発症の月経障害がその後の妊娠、産褥に及ぼす影響の調査
医師用

- 1) 患者氏名
- 2) 生年月日 年 月 日
- 3) 初診日 年 月 日
- 4) カルテ番号;
- 5) カルテ上住所
電話;
- 6) 初診時年齢 歳 両親名;
- 7) 初診時体重 kg 身長 cm
- 8) 初経 あり (歳 月), なし
- 9) 主訴
無月経、不正出血、月経不順、生理痛、腹部腫痛、
その他 ()
- 10) 最終診断 ()
- 11) 確定診断の方法 (症状から、内診、直腸診から、ラパロ、開腹、その他)
- 12) 主な治療内容
経過観察、グスターゲン単独、エストロゲン-グスターゲン投与、
排卵誘発、
止血剤投与、外科的処置 ()
その他 ()
- 13) 転帰
現在通院中
完治にて来院せず (最終診察日 年 月 日)
転居のため来院せず (最終診察日 年 月 日)
治療中に来院しなくなった (最終診察日 年 月 日)

表8 アンケート票 2-2

若年発症の月経障害がその後の妊娠、産褥に及ぼす影響の調査

- 1) 氏名
- 2) 年齢
- 3) 現住所 Tel;
- 4) 身長 cm 体重 kg
- 5) 最近の月経状況についてお尋ねします。
治療することなく正常周期で月経がある (日周期)
服薬、あるいは注射で月経を誘発している
服薬、注射は受けていないが、不規則ながら月経はある (日周期)
- 6) 結婚状況についてお尋ねします。
未婚
結婚 (結婚年月日 年 月)
離婚 (なし あり) → (ありの場合 年 月)
(またその理由:
不妊
その他)
- 7) 妊娠の有無についてお尋ねします。(未婚であっても御記入下さい)
なし
あり (日時を記入して該当するものに○を付けて下さい。子宮外妊娠、胎
状奇胎などあればその他として御記入下さい。
(1) 年 月 日 流産、中絶、分娩、その他 ()
この妊娠に関し不妊治療 (あり、なし)
ありの場合排卵誘発剤使用の有無 (あり、なし、不明)
(2) 年 月 日 流産、中絶、分娩、その他 ()
この妊娠に関し不妊治療 (あり、なし)
ありの場合排卵誘発剤使用の有無 (あり、なし、不明)
(3) 年 月 日 流産、中絶、分娩、その他 ()
この妊娠に関し不妊治療 (あり、なし)
ありの場合排卵誘発剤使用の有無 (あり、なし、不明)
(4) 年 月 日 流産、中絶、分娩、その他 ()
この妊娠に関し不妊治療 (あり、なし)
ありの場合排卵誘発剤使用の有無 (あり、なし、不明)

表9 アンケート票 2-3

8) 分娩なされた方にお尋ねします。

- (1) 分娩日時 年 月 日
分娩週数 週
児数 (1, 2, 3以上)
児性別 (男 女)、出生児体重 (g)
児奇形 (なし、 あり ())
陣痛は (自然発来、誘発剤使用、不明)
分娩は (経膈分娩、吸引分娩、鉗子分娩、帝王切開)
授乳は (母乳、人工、混合)
人工、あるいは混合となった理由は
(母乳の出が悪い、仕事の関係、
その他;)
この妊娠中につきりは (なし、軽い、中、入院した)
妊娠中毒症は (ない、あり)
その他の妊娠、分娩の異常 (なし、あり ())
- (2) 分娩日時 年 月 日
分娩週数 週
児数 (1, 2, 3以上)
児性別 (男 女)、出生児体重 (g)
児奇形 (なし、 あり ())
陣痛は (自然発来、誘発剤使用、不明)
分娩は (経膈分娩、吸引分娩、鉗子分娩、帝王切開)
授乳は (母乳、人工、混合)
人工、あるいは混合となった理由は
(母乳の出が悪い、仕事の関係、
その他;)
この妊娠中につきりは (なし、軽い、中、入院した)
妊娠中毒症は (ない、あり)
その他の妊娠、分娩の異常 (なし、あり ())
- 9) その他 (ありましたらご記入ください)

に大きく影響すると考えられる。従って、このような思春期における種々の障害やトラブルについて、性成熟期での大仕事である妊娠・分娩・産褥の経緯やその異常と関連づけて調査することは大きな意義があると思われる。ただし、思春期障害の背景が妊娠・分娩・産褥に及ぼす影響を報告した文献はこれまでほとんどなくその研究方法について苦慮するところであるが、この研究班では先に示した二種類のアンケート調査によりこの目的に向かってアプローチしたい。今後この研究を進めることにより、思春期における種々のトラブル・環境因子や性格形成などが妊娠分娩産褥における母子の保健・医療に及ぼす影響について、何らかの知見が得られることを期待したい。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約: 思春期における種々のトラブルが、その後経験した妊娠・分娩・産褥における異常やリスクファクターと関連性を有する否かを解明する目的で、自記式調査票を用いたアンケート調査を設定した。調査方法は二種類からなり、第一に分娩を終えた直後の産褥婦人を対象とした、思春期におけるトラブルに関するアンケート調査であり、第二に 1980年から 1985 年の 5 年間に婦人科外来に月経異常や月経障害を主訴に来院した患者に対する、その後の妊娠・分娩・産褥に関するアンケート調査である。この調査により、思春期での内分泌障害のみならずこの時期における社会環境や性格形成などが、後の妊娠・分娩・産褥の異常発生に関与するか否かが明らかになると考えられる。